

報道関係者各位

2012年8月2日

GoogleEarth を活用した被爆体験アーカイブが資料・機能を拡充 「Nagasaki Archive」バージョンアップを発表 AR(拡張現実)を活用した iPhone/iPad アプリで現在の町並みと連動 修学旅行生向けの平和学習公式ツールとしても展開予定

Nagasaki Archive 制作委員会(代表:首都大学東京准教授 渡邊英徳)は、長崎における被爆者の顔写真と体験談、そして被爆当時から現在に至る風景をデジタル地球儀「Google Earth」上で世界に伝えるオンライン・アーカイブ「Nagasaki Archive」(2010年7月22日公開)の大幅なバージョンアップについて、2012年8月2日(木)、正式に発表いたします。

「Nagasaki Archive」の発表以後取り組んできた「Hiroshima Archive」(2011)や「東日本大震災アーカイブ」、「沖縄平和学習アーカイブ」(2012)の実績、知見を元に、資料の追加による内容の充実と、新たな技術の適用による使いやすさの向上、また、iPhone/iPad との連携による、現実の風景とリンクした被爆資料の閲覧を可能にしました。

なお、今回のバージョンアップは、(社)長崎県観光連盟と(社)長崎国際コンベンション協会による合同団体「ナガサキ・アーカイブ実行委員会」の業務委託として実施されており、今後「Nagasaki Archive」は他県からの修学旅行生向け平和学習ソフトとして活用される予定です。



「Nagasaki Archive」TOP イメージ URL:<http://nagasaki.mapping.jp/>

※当コンテンツの閲覧にあたっては、「Google Earth」プラグイン(無料)、もしくは「Google Earth」のインストールが必要となっております。

Nagasaki Archive

「Nagasaki Archive」バージョンアップ概要

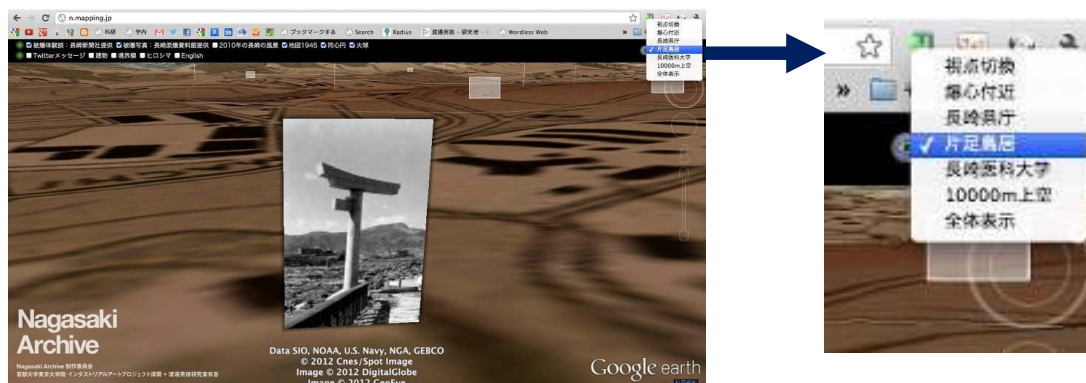
(1) 官民を超えた連携による証言資料の拡充

長崎原爆資料館、高校生1万人署名活動実行委員会らの協力を得て、アーカイブ上で閲覧できる被爆証言と写真資料を約60件追加(2012年8月9日長崎原爆の日までに実装予定)。文字証言だけでなく、ビデオ証言、写真資料の追加・拡充により、「被爆者ひとりひとりの体験の実相に迫るアーカイブ」としての価値をさらに向上させました。



(2) インターフェース・デザインの刷新による使いやすきの向上

Google Earth 版のインターフェース・デザインを刷新し、ユーザがナガサキ・アーカイブ上の任意の場所に迅速に移動できるようになりました。また、「Hiroshima Archive」(2011年)で実装した視点切り替え機能についても追加、被爆地周辺の各地点における視点の追体験が可能になりました。



(3) 現実の街並みと連携したARアプリ

今回のバージョンアップに伴い、iPhone / iPad 向けのアプリも提供を開始いたします。本アプリを活用することで、長崎現地において「自分の身の回りにある被爆資料」を、地図またはカメラの拡張現実(AR)ビュー上に重ねて閲覧することが可能になりました。(※ダウンロード無料)



「Nagasaki Archive」とは

「Nagasaki Archive」とは”長崎を人類最後の被爆地にする”ために原爆資料館や地元メディアが所有している多くの資料を全世界からアクセス可能にし、デジタル地球儀「Google Earth」を用いて地形と紐づいた情報を付加することで長崎の被爆の実相を、より具体的に追体験できる取り組みです。

■制作

Nagasaki Archive 制作委員会(渡邊英徳、鳥巢智行、大瀬良亮、草野史興)

Hiroshima Archive 制作メンバー(佐藤康満、山田大輝)

岸岡信伍、野澤万里江(首都大学東京)

■協力団体／企業

資料提供:長崎原爆資料館、高校生1万人署名活動実行委員会、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原爆後生涯医療県有施設(順不同)

サーバ配信・アプリ開発:株式会社フォトン

■発表／リニューアル

発表日:2010年7月22日

リニューアル期間:2012年4月～8月

■主な受賞歴

第14回文化庁メディア芸術祭 審査委員会推薦作品 2010年12月8日

Yahoo!Japan インターネットクリエイティブアワード特別賞(Creative Hack 賞) 2010年11月25日

首都大学東京 渡邊英徳研究室について

首都大学東京システムデザイン学部インダストリアルアートコースに所属する渡邊英徳研究室+渡邊英徳スタジオでは、社会貢献活動を行う組織や個人と連携し、インターネットサービスを応用したソーシャルなプロジェクトを実践的に研究しています。

2009年に特定非営利活動法人ツバル・オーバビューと協働した「ツバル・ビジュアライゼーション・プロジェクト」をはじめ、「Hiroshima Archive」(2011)や「東日本大震災アーカイブ」、「沖縄平和学習アーカイブ」(2012)などの多岐に渡る活動は、国際的な評価を受けています。

研究室ウェブサイト:<http://lab.wtnv.jp/>

本リリースに関するお問い合わせ先

公立大学法人首都大学東京システムデザイン学部
インダストリアルアートコース 渡邊英徳研究室 渡邊英徳
TEL:042-585-8606(代表) MAIL:nagasaki@mapping.jp